



TITLE:

京都支部・京星會だより(4月)(日食
特輯號)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都支部・京星會だより(4月)(日食特輯號). 天界 1936, 16(182): 341-342

ISSUE DATE:

1936-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167228>

RIGHT:

河合孝一諸氏推舉され、本部の高城氏により發表された、支部發展策も審議され、22時一先づ閉會、同所屋上の觀望會に移り廣野氏の15糧、西森氏の8糧反射經緯臺で天體美觀を恣にし23時散會す。

大 阪 支 部 6 月 例 會

1. 日 時 6月21日(日)18時より
1. 會 場 心齋橋筋2丁目 をぐらや2階
日食座談會 (花山觀測隊の電報報告、日食寫眞發表等)例により遠近より御出席して下さい。

京都支部・京星會だより (4月)

さくら、櫻の4月おちこちを埋める櫻は灰色の冬に凍てついた世界を蘇らせ彩づける。『名をもたぬ京の櫻はなかりけり』京洛はまさに名櫻畫譜を繰り擴げた如く、人々は花に浮れ京の町は櫻に明け櫻に暮れる。夕空の星は乳色の春霞に抱かれ靜かに微睡む様である。

○四月觀望例會 會員の會合と天文知識の啓發、一般人士の天文知識の普及を計るための觀望會は本年度は毎偶數月中旬開かれる事になつてゐる。4月の觀望例會は18日(土)夜二條公園に於て催される豫定で10日その案内狀が發送せられたが不幸當日は曇天で雨さへまぢり觀望不能に終つたでも熱心な數名の會員は附近の幹事宅に落合ひ春の夜を天文談に花を咲かせ心ゆくまで楽しんだ。

○春季合同ハイキング 昨春京星會と天文研究會の合同によつて初められた京阪合同ハイキングの第3回は天界に發表せられた通り、協會京都大阪兩支部を加へ大阪側が當番となり19日(日)17名の參加者によつて攝津の野に賑やかに催された(詳細は天界5月號)

○新會員募集運動 京都市の全同好者が結び合つて共に趣味を楽しみ研究を深める事を理想として創立以來2年、本會もようよう會員60名を數へる團體となり京都の協會員の過半數を占める處となつた。協會京都支部の名をもちその名に背かない正式活潑な活動を計るために京都の協會員諸氏總ての入會を希望し、中旬その拶揆狀、趣意書、會則及び會誌『京星』等印刷物を封入未

だ御入會願つてゐない諸氏50名に發送せられた。何れ幹事が改めて御願ひに參上する筈であるが、この會の主旨に賛同して戴きこの若き京都の同好者團體をより強固にするため進んでこの團體に加はつて戴くやう望む處である。尙これと平行して協會本部、地方委員間に京都支部の今後に就ての研究打合せがなされつゝある。

會員狀況 4月末京星會關係人員 顧問3氏 顧問に準ずる方5氏 賛助員2氏會員(京都市内居住)42名 賛同員(地方居住)14名 合計66名 準會員45名

日 食 特 輯 後 記

★茲に本協會創まつて以來の大奉仕、**「日食特輯號」**を計畫して、會員諸氏へ御送りする。御覽の通りの出来榮えである。兎に角、我々の時代につつては今世紀唯一の皆既日食を迎へたのである。かくの如き大計畫、大奉仕は先づ前にも後にもないものと御想像願ひたい。

★今度は天文臺員總出動、從つて、本誌の編輯係も觀測班を組織してゐる結果少人で實に筆舌に盡されぬ努力を傾注して、資料の蒐集と編輯作製に當つた。然かも極短時日の間にである、一方には印刷所の特別の盡力もある事には茲で謝意を表したい。

★各々觀測班は、日本全國の、否世界全國の感激と期待とを負つて、勇ましく出發して行つた。正しく空前の計畫である。一方、本會々員中の有志の方々も夫々の希望と又となきチャンスを狙つて何れも北海道へ!!、北海道へ!!

★内地に滞在される方々も、必ずや大小望遠鏡の放列を敷いてその日や遅しと待ち構へてゐられる事だらう。部分食觀測でも、立派な價值を持つてゐる。願くば夫々の結果を見せて頂かう。聽かせて頂かう。本誌8月號は日食報告號として特輯される豫定である。

★本年は天文の當り年で、日食ばかりに氣を取られてゐると大變!!天空の伊達者**「土星」**がああ美しいスカートを翻へす、——實に15年ぶりの見物!!日食とは異なつた嚴肅な態度で、微妙な瞬間を見守つて頂きたい、之れには遊星面課の方々の活躍が期待される。

★こんどの日食を機會に、東亞天文協會の存在が、大いに意義附けられた。その効果の数々が追々本誌に發表されて行く事だらう。

日章旗を高く掲げた觀測隊が、重大な責を負つて、全國民注視の中に、或は遠く故國を離れて、シベリヤの奥地へ、滿洲の邊境へ、又邦土の北端へ遠征して行つた。唯々各員の健康と大成功を祈るのみ!! —(葵星)—